

教育課程概念図【芸術学部 造形芸術学科】

ディプロマ・ポリシー

教育目的

創的で美的感性豊かな人間の育成をします。芸術教育を通して豊かな人格形成を達成し、自己の持つ創造力や感性を磨くことで、独自の発想力や表現力を獲得します。また、学園の行動指針「忠恕」が意味する、誠実で思いやりのある人間形成と、芸術を通じた価値観を醸成します。社会における人間同士のコミュニケーション能力を高めます。芸術による社会貢献を目標に掲げ、より実り豊かな未来を実現すべく活躍できる人材を育成して行きます。

確かな専門性

1. 芸術・デザインに関する知識と理解：歴史的・理論的な学修に基づいた能力を有効に活用する事ができる力を身に付けます。
2. 基礎造形能力：描画力、色彩計画、素材知識、構成力、コンピュータスキル、有効に活用する事ができる専門職業人として必要とされる専門技能を身に付けます。
 - (1) 表現力：個性を反映した提案性のある造形表現ができる。
 - (2) 技術力：実践スキルに基づいた技能が発揮できる。
 - (3) 構成力：様々な知識や技能を活かして作品をまとめることができる。
 - (4) プレゼンテーション能力：作品の意図を社会に対して情報発信できる。

学び続ける姿勢

1. 社会生活上に必要な基礎的教養と能力を身に付けます。
 - (1) 文章表現力：簡潔に要点をまとめ、伝える故地ができる。
 - (2) 伝える能力：聞き手の理解を確かめながら、対話を進める事ができる。
 - (3) 計算力：物事を定量的に捉え、比較対照する事ができる。
 - (4) 学習力：自律、自立して学習することができる。
 - (5) 知識と理解：文化、社会と自然に関する知識を理解できる。

協働できる素養

1. 職業生活上、状況分析、課題解決に必要な汎用的知識と技能を身に付けます。
 - (1) 情報収集力：必要な情報を判断し、収集する事ができる。
 - (2) 分析力：目的に沿って収集した情報を整理し、その関係性や本質を明らかにできる。
 - (3) 課題解決力：課題を解決する為の筋道を考えることができる。
2. 社会を構成する自立した人間として必要な、社会人基礎力を身に付けます。
 - (1) 主体性：積極的に取り組もうとする態度を持つ（リーダーシップの涵養）。
 - (2) 行動力：ニーズに基づいて計画的に行動しようとする態度を持つ。
 - (3) 協働力：自己の役割を理解し、他者と共に協働しようとする態度と倫理観を持つ。
 - (4) コミュニケーション能力：効果的に意思疎通ができ、状況に即した表現力を持つ（マネジメント力）。

忠恕の心

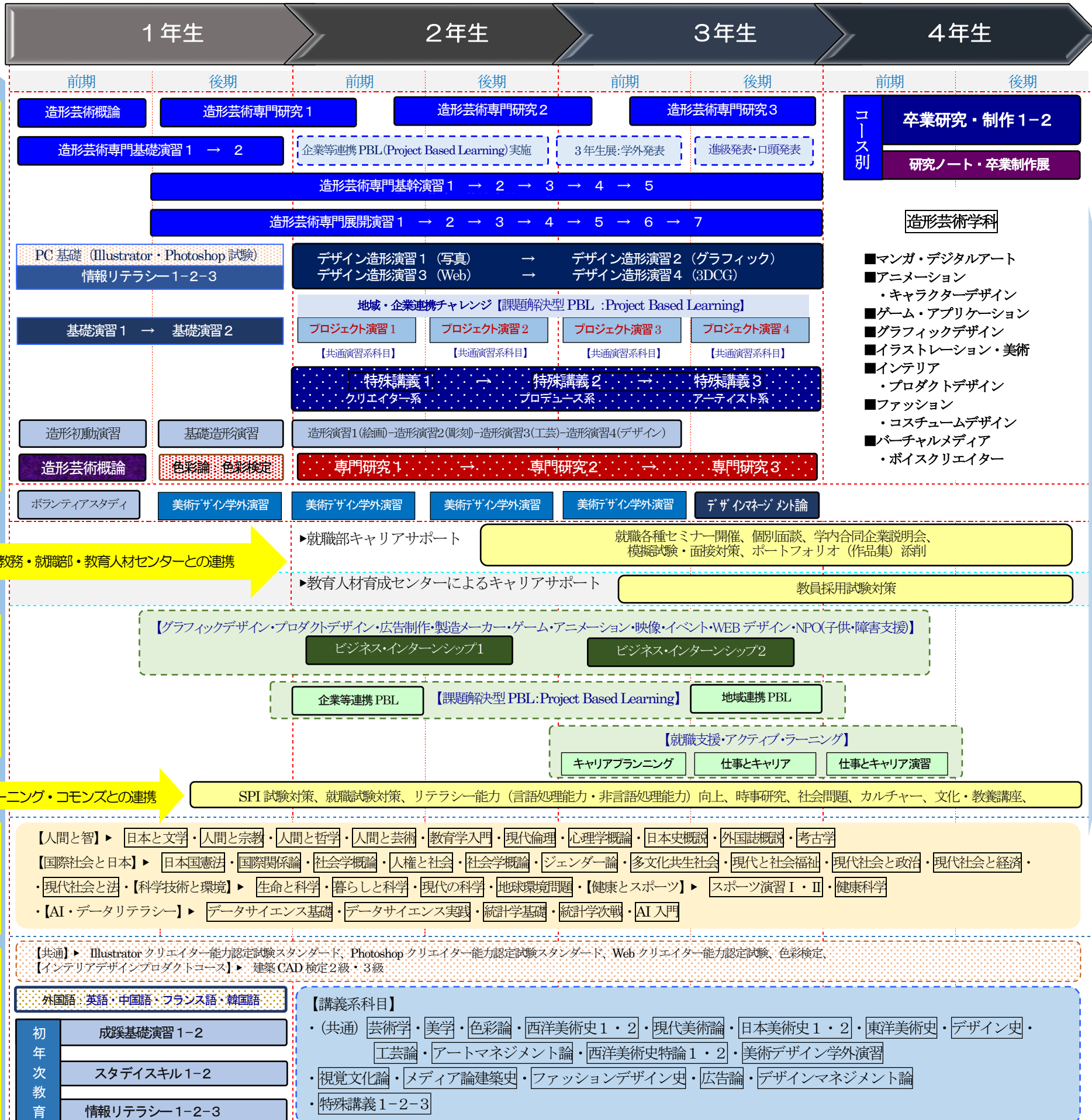
常に真を尽くし、人の立場に立って考え行動する事ができる。

学科・専門科目

キャリア科目

共通教養科目

共通基礎科目



「人間力」育成 【建学の精神】 ▶ 桃李不言下自成蹊、【行動指針】 ▶ 忠恕 (夫子の道は忠恕のみ)

桃李不言下自成蹊